

- 問1 7世紀後半、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国（日本）は、大陸からの侵攻に備えて九州北部の防衛を強化しました。この際、軍事・行政の拠点であった大宰府を防御するために、その北側に築かれた大規模な土塁と水堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。 （2022年 神奈川県公立入試 類似）

1. 水城

2. 前方後円墳

3. 環濠集落

4. 板付遺跡
- 問2 聖徳太子が定めた十七条の憲法の目的や内容について、当時の時代背景を踏まえて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 （2023年 岐阜県公立入試 類似）

1. 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。

2. 唐の律令制度をそのまま導入し、土地や人民を国家が直接支配する公地公民の原則を確立した。

3. 武士の間で起こる領地争いを公平に裁くため、日本で初めての武家独自の裁判基準を示した。

4. 身分に関わらず才能のある人物を役人に登用するため、位階によって帽子の色を分ける制度を整えた。
- 問3 7世紀後半、皇位継承をめぐる「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。 （2022年 大分県公立入試 類似）

1. 天武天皇

2. 天智天皇

3. 聖徳太子

4. 桓武天皇
- 問4 7世紀から8世紀にかけての律令国家形成期の出来事について、天武天皇の事績として正しい記述はどれか。 （2022年 大分県公立入試 類似）

1. 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。

2. 都を近江大津宮に遷し、日本最古の戸籍とされる庚午年籍を作成して、国民の把握に努めた。

3. 唐と新羅の連合軍に大敗した白村江の戦いを受けて、九州沿岸に防人や水城を配置して国防を強化した。

4. 遣隋使を派遣して大陸の進んだ制度を学び、仏教を政治の柱とするために四天王寺や法隆寺を建立した。
- 問5 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」において唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。この時、西日本の各地に山城を築き、九州の沿岸に「防人」を配置した人物は誰ですか。 （2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 中大兄皇子

2. 聖武天皇

3. 白河上皇

4. 足利義満
- 問6 7世紀の日本が遣隋使の派遣や大化の改新を経て、急速に律令制度を導入し、中央集権体制を確立しようとした背景について説明したものととして、最も適切なものを選びなさい。 （2024年 山梨県公立入試 類似）

1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。

2. 承久の乱によって朝廷の権威が失墜したため、天皇の力を再び強めるための新しい法律が必要になったため。

3. 建武の新政において、公家と武士の双方を納得させるための新しい裁判基準を定める必要があったため。

4. 元の襲来（元寇）を受けた経験から、九州沿岸の警備を強化するために中央から地方へ命令を伝える仕組みを整えたため。
- 問7 7世紀の日本における政治的な変遷をたどると、645年に蘇我氏を打倒した「乙巳の変」をきっかけに大きな改革が始まりました。この改革の中心人物であり、後に近江大津宮で即位して天智天皇となった人物は誰ですか。 （2022年 静岡県公立入試 類似）

1. 中大兄皇子

2. 聖徳太子

3. 中臣鎌足

4. 大海人皇子
- 問8 7世紀後半に起こった「壬申の乱」の経緯とその結果について述べた文として、正しいものはどれか。名称や関係性に注目して選びなさい。 （2024年 高知県公立入試 類似）

1. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。

2. 中臣鎌足が中大兄皇子と協力して蘇我氏を倒し、大化の改新を開始した。

3. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、憲法十七条や冠位十二階を制定した。

4. 桓武天皇が新しい政治を行うため、都を平城京から平安京へと移した。
- 問9 飛鳥時代、聖徳太子が604年に定めた「十七条の憲法」の第一条には、「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という一節があります。このように役人の心得を説き、天皇の命令に従うことを強調した主な目的として最も適切なものはどれですか。 （2018年 大分県公立入試 類似）

1. 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため

2. 氏姓制度を強化し、有力な豪族が代々高い役職を独占する仕組みを維持するため

3. 唐の律令にならい、犯罪に対して厳しい刑罰を科すことで社会の秩序を保つため

4. 仏教を国教と定め、寺院を建立するための多額の税を民衆から徴収するため
- 問10 法隆寺の金堂に安置されている釈迦三尊像に見られる、中央の釈迦如来と左右の脇侍を配置した形式や、中国の北魏様式の影響を受けた特徴を持つ文化の名称として最も適切なものを答えなさい。 （2021年 大阪公立入試 類似）

1. 飛鳥文化

2. 白鳳文化

3. 天平文化

4. 弘仁・貞観文化
- 問11 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が、天皇を中心とする国づくりを進めるために制定した、役人が守るべき道徳的な心得を何といいますか。 （2018年 三重公立入試 類似）

1. 十七条の憲法

2. 御成敗式目

3. 武家諸法度

4. 公事方御定書
- 問12 推古天皇の即位や冠位十二階の制定などが記された7世紀初頭の歴史年表において、この時期に並行して栄えた文化の記述として、その特徴と中心地の組み合わせが適切なものを選びなさい。 （2017年 愛媛県公立入試 類似）

1. 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。

2. 唐の文化の影響を強く受けた国際色豊かな文化であり、平城京を中心に栄えた。

3. 天武天皇や持統天皇の時期を中心とし、薬師寺の造営などに見られる文化である。

4. 貴族が日本の風土や生活に合わせた文化を生み出し、平安京を中心に栄えた。
- 問13 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。 （2023年 福島県公立入試 類似）

1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。

2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。

3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。

4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 水城	663年の白村江の戦いでの敗北後、天智天皇は唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。大宰府という重要な拠点を守るため、平地を遮断するように巨大な堤防（土塁）を築き、そこに水を溜めて堀としたのが「水城」です。このほか、西日本の各地には朝鮮式山城と呼ばれる城も築かれ、国家的な防衛網が整備されました。
問2	答え 1 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。	十七条の憲法は、法的な罰則よりも役人が守るべき精神的な規範に重点が置かれています。「和を以て貴しとなす」という言葉に代表されるように、豪族同士の争いを戒め、仏教や儒教の教えを通じて天皇への忠誠を促すことで、中央集権的な国家を築こうとする意図がありました。
問3	答え 1 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐって争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問4	答え 1 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。	天武天皇は、それまで「大王」と呼ばれていた君主の称号を「天皇」へと定め、国号を「日本」とした時期の人物と考えられています。また、歴史書である「古事記」や「日本書紀」の編纂を命じたのも彼であり、国家としてのアイデンティティを確立しようとした点が大きな特徴です。他の選択肢は、天智天皇（近江大津宮、庚午年籍、白村江の戦い）や聖徳太子（遣隋使、法隆寺）に関する内容です。
問5	答え 1 中大兄皇子	663年の白村江の戦いで敗北した後、中大兄皇子は唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。そのため、大宰府を防御するための「水城」や西日本各地の「山城」を築くとともに、東国から集めた農民を「防人」として九州北部の警備にあたらせました。彼は後に天智天皇として即位し、近江大津宮へと遷都しました。
問6	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。	663年の白村江の戦いでの大敗は、日本に唐などの強大な勢力による侵攻の危機感を与えました。これに対抗するため、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」を原則とする律令体制を整え、国力を結集できる仕組みを急いで作る必要があったのです。
問7	答え 1 中大兄皇子	蘇我入鹿を倒して権力を奪還した中大兄皇子は、中臣鎌足らとともに「大化の改新」と呼ばれる政治改革を推進しました。この改革は、豪族中心の政治から天皇を中心とする中央集権国家への転換を目指したもので、中大兄皇子はその後、正式に天智天皇として即位しました。
問8	答え 1 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。	天智天皇の死後、後継者をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子の間で武力衝突が起こりました。これが壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇となり、地方の豪族を従えて中央集権化を強めました。選択肢にある大化の改新や、聖徳太子の政策、平安京への遷都は、それぞれ異なる時期や人物による出来事です。
問9	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子が活躍した時代は、有力な豪族どうしの対立が激しく、国家としてのまとまりが欠けていました。そこで、役人が守るべき道徳的な規範として十七条の憲法を制定し、仏教の尊重や天皇への服従を求めることで、天皇を中心とした組織的な政治の仕組みを固めようとししました。
問10	答え 1 飛鳥文化	釈迦三尊像は鞍作鳥（止利仏師）によって作られたとされる、飛鳥文化を代表する金銅像です。この時代の彫刻は、大陸との交流を背景に中国の北魏などの様式を取り入れており、アーモンド形の目や「アルカイク・スマイル」と呼ばれるかすかな微笑みの特徴です。これは日本で最初に開花した本格的な仏教文化の特色を示しています。
問11	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、有力な豪族たちが勢力争いを続けていた当時の状況を改善し、天皇を中心とした中央集権体制を築くことを目指しました。そのために、儒教や仏教の教えを取り入れながら、役人としての心構えを説いたこの法を定めました。選択肢にある他の法は、鎌倉時代の武士のための法（御成敗式目）や江戸時代の大名・裁判のための法であり、時代や対象が異なります。
問12	答え 1 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。	飛鳥時代、特に推古天皇の時代には現在の奈良県明日香村周辺（飛鳥）に政治の拠点が置かれていました。渡来人の技術を取り入れた寺院建築や仏像制作が盛んに行われ、仏教を中心とした独自の文化が形成されました。選択肢にある平城京や天平文化、平安京や国風文化は、より後世の時代の特徴です。
問13	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。

問1 飛鳥時代、有力な豪族として聖徳太子（厩戸皇子）と協力し、仏教を広めるとともに天皇を中心とした国づくりを進めた人物はだれですか。
（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 蘇我馬子
2. 蘇我入鹿
3. 蘇我稻目
4. 物部守屋

問2 672年に発生した古代日本最大の内乱である「壬申の乱」は、どのような状況下で起こった出来事ですか。その背景として最も適切な説明を選びなさい。
（2019年 香川公立入試 類似）

1. 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。
2. 聖徳太子の死後、蘇我氏が政治の実権を握り、独裁的な政治を行ったことに不満が募った。
3. 大化の改新を進める中大兄皇子に対して、旧勢力の貴族たちが一斉に反旗を翻した。
4. 唐と新羅の連合軍に敗れた後、国防体制の整備をめぐって朝廷内が二つの勢力に分かれた。

問3 645年、中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおしたことをきっかけに始まった政治改革では、どのような国家体制を目指したか。最も適切なものを選びなさい。
（2019年 香川公立入試 類似）

1. 天皇を中心とした中央集権的な国づくり
2. 有力な豪族による合議制に基づいた政治
3. 武士が政治の実権を握る封建的な仕組み
4. 外国の王をトップに据えた国際的な統治

問4 朝鮮半島西岸の百済旧領に近い位置で行われた白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻を恐れて国内の防衛体制を急いで整えました。このとき、九州の防衛拠点である大宰府を保護するために築かれた、大規模な土塁の名称を答えなさい。
（2025年 茨城公立入試 類似）

1. 水城
2. 大野城
3. 多賀城
4. 山城

問5 法隆寺の金堂に見られる、柱の中ほどに膨らみを持たせる「エンタシス」という技法や、その建築様式について正しく説明しているものはどれですか。
（2024年 岐阜公立入試 類似）

1. ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。
2. 唐の先進的な文化を直接取り入れた、国際色豊かな天平文化の特徴を示している。
3. 日本独自の風土に合わせて発展した、優雅な国風文化の特徴を示している。
4. 禅宗の影響を受け、簡素で精神性を重んじた東山文化の特徴を示している

問6 飛鳥時代、聖徳太子が604年に定めた「十七条の憲法」の第一条には、「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という一節があります。このように役人の心得を説き、天皇の命令に従うことを強調した主な目的として最も適切なものはどれですか。
（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため
2. 氏姓制度を強化し、有力な豪族が代々高い役職を独占する仕組みを維持するため
3. 唐の律令にならい、犯罪に対して厳しい刑罰を科すことで社会の秩序を保つため
4. 仏教を国教と定め、寺院を建立するための多額の税を民衆から徴収するため

問7 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、倭国（日本）の政権は、大陸からの侵攻を非常に強く警戒するようになりました。そのための防衛対策として、九州地方を中心に実施された内容として正しいものはどれですか。
（2024年 高知公立入試 類似）

1. 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した
2. 元軍の再来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築いた
3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するために、多賀城を築き鎮守府を置いた
4. 白河上皇が北面の武士を組織し、御所の警備と寺社の強訴を防いだ

問8 推古天皇の摂政として、才能や功績に応じて位を与える冠位十二階の制度や、役人の心構えを示す十七条の憲法を定めた人物は誰か。
（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 聖徳太子
2. 中臣鎌足
3. 天武天皇
4. 天智天皇

問9 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度について、その目的と仕組みを正しく説明しているものはどれですか。
（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。
2. 有力な豪族の家柄を重視し、世襲によって代々高い役職を独占させることで、政治の安定を図った。
3. 土地と人民をすべて国家のものとし、位階に応じて区分田を割り当てることで、税制の基礎を築いた。
4. 各氏族に対し、その功績に応じて「姓（かばね）」を授けることで、天皇を中心とする身分秩序を固定した。

問10 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。
（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した
2. 大陸の影響を拒絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した
3. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた
4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した

問11 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。
（2023年 秋田県公立入試 類似）

1. 唐
2. 隋
3. 宋
4. 元

問12 中大兄皇子とともに政治改革を主導し、後にその功績を称えられて「藤原」という姓を授かり、平安時代の摂関政治へとつながる一族の祖となった人物は誰ですか。
（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. 中臣鎌足
2. 聖徳太子
3. 小野妹子
4. 北条時政

問13 聖徳太子が行った政治改革のうち、「詔（天皇の命令）を承けては必ず謹め」といった記述が含まれ、仏教を敬うことや官吏（役人）が守るべき道徳を示したものはどれですか。
（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 十七条の憲法
2. 冠位十二階
3. 大宝律令
4. 五箇条の御誓文

答え合わせ・解説

問1	答え 1 蘇我馬子	蘇我馬子は、仏教の受容をめぐって対立していた物部守屋を倒し、一族の繁栄を築きました。聖徳太子とともに冠位十二階や十七条の憲法の制定に関わり、中央集権的な国家体制の基礎を作りました。選択肢にある蘇我入鹿は馬子の孫にあたり、大化の改新（乙巳の変）で滅ぼされた人物です。
問2	答え 1 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐり、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問3	答え 1 天皇を中心とした中央集権的な国づくり	蘇我氏を打倒した後に始まった大化の改新は、それまで有力豪族が持っていた権力を集約し、天皇を中心とした新しい国づくりを目指すものでした。この改革により、土地や人民を国家が直接支配する「公地公民」などの制度が整えられていきました。
問4	答え 1 水城	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇は唐・新羅の日本侵攻を想定し、対馬・杵岐・北九州に「防人（さきもり）」を配置するとともに、のろし台を設置しました。特に政治・外交の拠点であった大宰府を守るため、その前方に「水城」と呼ばれる巨大な堤（土塁）を築き、外堀に水を貯めて敵の侵入を防ぐ工夫を凝らしました。
問5	答え 1 ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。	法隆寺の柱に見られる膨らみは、古代ギリシャの神殿などに見られる「エンタシス」と呼ばれる技法との関連が指摘されています。これは、当時の日本が朝鮮半島や中国だけでなく、シルクロードを通じて遠く西方の文化の影響も受けていたことを物語る、日本最古の仏教文化である飛鳥文化の重要な事例です。
問6	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子が活躍した時代は、有力な豪族どうしの対立が激しく、国家としてのまとまりが欠けていました。そこで、役人が守るべき道徳的な規範として十七条の憲法を制定し、仏教の尊重や天皇への服従を求めることで、天皇を中心とした組織的な政治の仕組みを固めようとししました。
問7	答え 1 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇（中大兄皇子）は唐・新羅の侵攻に備え、対外防衛の拠点である大宰府を保護するために水城や山城を築きました。また、東国の兵士を「防人」として九州沿岸の警備に当たらせ、国家としての守りを固めました。他の選択肢は鎌倉時代の元寇対策や、平安時代の東北経営・院政期の説明です。
問8	答え 1 聖徳太子	推古天皇の協力者として、天皇中心の国づくりを進めたのは聖徳太子である。中臣鎌足は中大兄皇子とともに大化の改新を行い、天武天皇は壬申の乱の後に即位して律令国家の建設を進めた人物であるため誤り。
問9	答え 1 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。	聖徳太子は、従来の氏姓制度（家柄に基づく世襲制）による官僚登用から脱却し、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため、個人の能力や功績を評価する仕組みを導入しました。これが冠位十二階です。この制度では、昇進が可能であることや、冠の色によって一目で地位が判別できるといった特徴がありました。
問10	答え 1 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した	白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。
問11	答え 1 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。
問12	答え 1 中臣鎌足	中臣鎌足は、中大兄皇子の知恵袋として蘇我氏打倒の計画から改革の実行まで重要な役割を果たしました。死の間際に、これまでの功績によって「藤原」の姓を贈られ、その子孫である藤原氏は後の日本政治において大きな影響力を持つこととなります。
問13	答え 1 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、日本最初の成文法としての性格を持ちますが、現代の法律とは異なり、役人が政治を行う上での「心得」を説いたものです。同じく聖徳太子の政策である冠位十二階は「個人の才能を評価する制度」であり、この憲法とあわせて天皇中心の政治を支える基盤となりました。

- 問1 飛鳥時代、仏教の受容に積極的であった蘇我馬子が、大陸から招いた技師の指導を受けて建立した、日本で最初の本格的な寺院を何といいますか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. 飛鳥寺 2. 法隆寺 3. 東大寺 4. 四天王寺
- 問2 7世紀から8世紀にかけての日本の政治と都の変遷について述べた記述において、聖徳太子を摂政に任命して小野妹子らを遣隋使として派遣した天皇と、710年に唐の都である長安を模して建設された都の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 秋田公立入試 類似)
1. 推古天皇と平城京 2. 天武天皇と平城京 3. 推古天皇と大宰府 4. 天武天皇と大宰府
- 問3 672年に起こった壬申の乱のあとの政治的な変化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知公立入試 類似)
1. 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。 2. 乱を平定するために武士の力を借りた朝廷は、これを機に武士の政治的な実力を認めるようになった。 3. 乱はわずか一日で鎮圧されたため、それまでの豪族中心の政治体制に大きな変化は生じなかった。 4. 勝利した側が唐の制度をすべて廃止し、日本独自の貴族による合議制を確立させた。
- 問4 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 遣唐使 3. 遣明使 4. 朝鮮通信使
- 問5 7世紀の日本は、聖徳太子の政治や大化の改新（645年～）など、国家の仕組みが大きく変化した飛鳥時代に当たります。この時期に天皇を中心とする中央集権国家の建設が急がれた背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから 2. 地方の武士が力を持ち始めたため、その反乱を抑えるための軍勢力を整備したかったから 3. キリスト教の伝来による文化的な混乱を鎮め、仏教を中心とした国づくりを目指したから 4. ヨーロッパ諸国との貿易を円滑に進めるために、港の整備と度量衡の統一が必要だったから
- 問6 663年に朝鮮半島で起こった白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、大和政権は九州の防衛を強化しました。このとき、博多湾から太宰府へ侵攻してくる敵を防ぐために築かれた、全長約1.2kmに及ぶ大規模な土塁と堀で構成された防衛施設を何といいますか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
1. 水城 2. 防人 3. 山城 4. 烽火
- 問7 聖徳太子は十七条の憲法を制定した際、役人に対して「天皇の命令（詔）には必ず従わなければならない」という姿勢を強調しました。このような記述が盛り込まれた政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 奈良公立入試 類似)
1. 有力な豪族が対立し合っていたため、天皇を中心とした中央集権的な国家を目指す必要があったから。 2. 大宝律令に基づいた戸籍を作成し、すべての民衆に土地を平等に分配する仕組みを完成させたかったから。 3. 唐の制度を模範とした大規模な行政組織がすでに完成しており、その運用を円滑にするため。 4. 仏教を国教として強制し、法隆寺のような寺院の建立を最優先する国家方針を徹底させるため。
- 問8 聖徳太子が小野妹子を隋へ派遣した目的として、当時の日本の政治状況や国づくりの方針を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため 2. 大宝律令を完成させるために、中国の法律の専門家を日本に招く交渉を行うため 3. 卑弥呼がかつて受けた「親魏倭王」のような称号を隋の皇帝から授かり、国内の統治を安定させるため 4. 菅原道真の建議に基づき、危険な渡海を伴う外交を縮小するための事前調査を行うため
- 問9 7世紀後半、天智天皇の死後に発生したその後継者をめぐる大規模な内乱について、この争いに勝利した大海人皇子が即位後に行った政治的な取り組みとして、最も適切なものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。 2. 摂政や関白の役職を確立し、藤原氏が政治の実権を握る基盤を作った。 3. 武士の力を初めて政治に利用し、全国に守護や地頭を配置して統治を強めた。 4. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用を目指した。
- 問10 飛鳥時代から江戸時代までの重要人物をまとめた記述において、壬申の乱での勝利を通じて即位し、天皇を中心とした国づくりを進めたとされる人物の事績として、最も適切な説明はどれか。 (2025年 栃木公立入試 類似)
1. 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。 2. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用や政治の心得を示した。 3. 墾田永年私財法を出し、開墾した土地の永久私有を認めることで農地の拡大を図った。 4. 律令政治の立て直しを目的として、都を平城京から平安京へと移した。
- 問11 7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）や蘇我氏が活躍した時期に栄え、日本で最初の本格的な仏教文化となったものを何というか。 (2017年 岐阜公立入試 類似)
1. 飛鳥文化 2. 白鳳文化 3. 天平文化 4. 国風文化
- 問12 6世紀末から7世紀前半にかけて、推古天皇の摂政であった聖徳太子や大臣の蘇我氏らが中心となって発展した、日本で最初の本格的な仏教文化の名称として正しいものを選びなさい。 (2017年 愛媛公立入試 類似)
1. 飛鳥文化 2. 白鳳文化 3. 天平文化 4. 国風文化
- 問13 聖徳太子が制定した「十七条の憲法」の目的として、当時の政治的な背景から考えて最も適切な説明はどれか。 (2024年 徳島公立入試 類似)
1. 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。 2. 氏姓制度を維持するために、有力な豪族が代々高い官職を独占することを認めた。 3. 唐の優れた法律にならい、日本で初めてとなる刑罰のきまりと政治の仕組みを明文化した。 4. 神話の時代から続く天皇の歴史を記録することで、天皇による統治の正当性を内外に示した。
- 問14 701年に大宝律令が制定された際、政治の中心地として機能していた都について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、この都は現在の奈良県橿原市付近に位置しており、日本で初めての本格的な都城（街並みが整備された都）として知られています。 (2022年 大阪公立入試 類似)
1. 中国の都にならって整備された日本初の本格的な都城である藤原京 2. 聖武天皇の時代に国際色豊かな文化が栄えた平城京 3. 孝徳天皇によって難波の地に置かれ、大化の改新の舞台となった難波京 4. 桓武天皇によって遷都され、平安時代を通じて政治の中心となった平安京

答え合わせ・解説

問1	答え 1 飛鳥寺	崇仏論争で物部氏に勝利した蘇我氏が、その権勢を示すとともに仏教を広める拠点として建立しました。それまでの日本の建物にはなかった屋根瓦の使用や、五重塔・金堂といった伽藍配置など、大陸の最新技術が初めて体系的に取り入れられた歴史的建造物です。
問2	答え 1 推古天皇と平城京	推古天皇は、聖徳太子（厩戸王）を摂政とし、中国の隋に対して対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。その後、元明天皇の時代の710年には、唐の都である長安に倣った「条坊制」と呼ばれる碁盤の目の状の都市区画を持つ平城京が建設され、本格的な律令国家の歩みが進められました。天武天皇は飛鳥浄御原令の編纂などに関わった天皇であり、大宰府は九州に置かれた外交や国防の拠点であるため、都の名称としては不適切です。
問3	答え 1 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。	壬申の乱で勝利して即位した天武天皇は、それまでの豪族たちが政治の実権を握る体制を改め、天皇に権力を集中させました。これにより、天皇を中心とした中央集権的な法制度に基づく「律令国家」の形成が加速することとなりました。武士が政治的な力を強めるのは平安時代末期以降のことです。
問4	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問5	答え 1 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから	7世紀の日本は、大陸での唐の建国や、朝鮮半島での緊迫した情勢に直面していました。特に白村江の戦いでの敗北は大きな危機感をもたらし、いつ海外から侵攻されてもおかしくない状況下で、一刻も早く天皇に権力を集中させ、律令制度に基づく強固な国家体制（中央集権体制）を築くことが急務となりました。
問6	答え 1 水城	白村江の戦いで敗北した大和政権は、唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。特に九州の政治・外交の拠点であった太宰府を守るため、その北側に巨大な堤防のような土塁を築き、さらに外側に水を蓄えた堀を設けることで、博多湾方面からの敵の進入を阻止しようしました。この施設は「水城」と呼ばれ、現在の福岡県にその遺構が残っています。
問7	答え 1 有力な豪族が対立し合っていたため、天皇を中心とした中央集権的な国家を目指す必要があったから。	当時は蘇我氏などの有力な豪族が政治の実権を争っており、国家としてのまとまりが欠けていました。聖徳太子は「和を以て貴しとなす」という言葉で豪族間の協調を求めつつ、天皇の命令（詔）に従うことを義務づけることで、個々の豪族の権力を抑え、天皇を中心とする秩序ある国づくりを進めようとしていました。なお、全国的な律令（大宝律令）の完成は、この憲法制定から約1世紀後のことです。
問8	答え 1 中国の進んだ制度や文化を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権的な国づくりを進めるため	当時の日本は、豪族が強い勢力を持つ体制から、天皇を中心とした組織的な国家への転換を目指していました。冠位十二階や十七条の憲法の制定と並行して行われた遣隋使の派遣は、中国の官僚制や仏教精神を学ぶことで、強力な国家体制を築くための重要な手段でした。なお、大宝律令は8世紀、遣唐使の停止（菅原道真的建議）は9世紀の出来事であり、卑弔呼は3世紀の人物です。
問9	答え 1 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。	天智天皇の死後に起きた壬申の乱で、天皇の息子である大友皇子を破った大海人皇子は、天武天皇として即位しました。天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から天皇中心の強力な中央集権体制への転換を図りました。具体的には、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（後の『古事記』や『日本書紀』）の編纂を命じたりするなど、律令国家の基礎を固める重要な役割を果たしました。
問10	答え 1 飛鳥浄御原令の編纂や、日本初の本格的な都とされる藤原京の造営に着手した。	壬申の乱に勝利した天武天皇は、律令の先駆けとなる飛鳥浄御原令の編纂を命じ、より強力な中央集権体制を象徴する藤原京の建設を進めました。他の選択肢は、それぞれ聖徳太子、聖武天皇、桓武天皇の事績です。
問11	答え 1 飛鳥文化	聖徳太子が摂政を務めた推古天皇の時代を中心に、蘇我氏などの有力豪族が仏教を積極的に受け入れたことで形成された。大陸の技術や様式を直接的に取り入れ、寺院建築や仏像制作が盛んに行われた。
問12	答え 1 飛鳥文化	この時期、朝鮮半島や中国大陆から伝来した仏教が政治の場でも重んじられるようになりました。聖徳太子（厩戸王）や蘇我馬子らが中心となり、法隆寺や飛鳥寺といった寺院が建立されたことが特徴です。これが日本最初の仏教文化となりました。
問13	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。	当時の政治は有力豪族である蘇我氏などが強い勢力を持っていましたが、聖徳太子は官吏（役人）の心得を定めることで、個々の豪族が勝手な行動を慎み、天皇に忠実に仕える体制を整えようとしていました。同時に導入された「冠位十二階」とともに、家柄にとらわれない中央集権的な国づくりが意図されていました。
問14	答え 1 中国の都にならって整備された日本初の本格的な都城である藤原京	藤原京は、694年から710年まで都として機能した場所です。701年の大宝律令制定時の都であり、それまでの宮殿中心の形態から、中国（唐）の都制を参考にした大規模な市街地を持つ「都城」へと進化した最初の例です。位置は現在の奈良県橿原市にあたります。

- 問1 663年の白村江の戦いにおいて唐・新羅の連合軍に大敗したのち、倭（日本）は国家存亡の危機に直面しました。この事態を受けて即位した天武天皇が、天皇を中心とする中央集権体制を確立するために、人々の氏姓を整理し、全国規模で初めて作成した戸籍を何と呼びますか。 （2024年 鳥取公立入試 類似）
1. 庚寅年籍 2. 庚午年籍 3. 班田収授法 4. 墾田永年私財法
- 問2 白村江の戦いにおける日本の敗北は、その後の日本の政治体制にどのような影響を与えたと考えられますか。その背景と目的を説明した文として最も適切なものを選んでください。 （2022年 静岡公立入試 類似）
1. 唐や新羅による侵攻の危機に直面したため、天皇中心の中持集権国家を急いで確立し、国力を強化しようとした。
2. 朝鮮半島での勢力を完全に失ったため、大陸との交流を一切断ち切り、国風文化を発展させるきっかけとなった。
3. 地方の豪族が独自に軍隊を持つことを奨励し、各地の守りを固めさせることで軍事力の分散を図った。
4. 唐の制度を模倣することをやめ、日本の伝統的な部族連合体制をより強化することで結束を高めようとした。
- 問3 7世紀、日本は友好関係にあった百済が滅亡した際、その復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送りました。このとき、日本軍が白村江で戦い、大敗を喫した相手である二つの国の連合軍として正しいものを次の中から選びなさい。 （2023年 福井公立入試 類似）
1. 唐と新羅 2. 隋と新羅 3. 唐と高句麗 4. 元と高麗
- 問4 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。 （2020年 奈良公立入試 類似）
1. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。
2. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。
3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。
4. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。
- 問5 天智天皇の死後、その後継者をめぐって起きた672年の壬申の乱に勝利し、天皇を中心とした強力な支配体制の確立を目指した人物は誰か。 （2018年 岡山公立入試 類似）
1. 聖徳太子 2. 天武天皇 3. 中大兄皇子 4. 桓武天皇
- 問6 「第一条に、和をなによりも大切なものとする」「第二条に、仏・法・僧の三つの宝を敬うこと」「第三条に、天皇の命令を承ったときは必ず謹んで従うこと」といった内容が記されている資料の、歴史的な背景として最も適切なものはどれですか。 （2023年 長崎公立入試 類似）
1. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。
2. 遣唐使によってもたらされた最新の法律制度をそのまま導入し、法治国家を目指した。
3. 武士が政治の実権を握ったため、朝廷の権威を取り戻すための軍事的な規則を定めた。
4. 仏教を国教として定め、寺院が政治に介入することを認める特権を与えた。
- 問7 7世紀後半の日本の政治情勢について、壬申の乱に勝利した天武天皇が、天皇を中心とする中央集権体制をさらに強めるために実施した制度や仕組みの説明として、適切なものはどれか。 （2021年 埼玉公立入試 類似）
1. 豪族たちを天皇を頂点とする新たな序列に組み替えるため、八色の姓を定めた。
2. 有力な豪族であった蘇我氏を滅ぼし、公地公民の原則を打ち出した。
3. 律令を完成させ、日本で初めてとなる本格的な都である藤原京を完成させた。
4. 班田収授法を停止し、開墾した土地の永久私有を認める法律を制定した。
- 問8 7世紀後半、日本（倭）が「白村江の戦い」で唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州地方では大規模な防衛施設の建設が進められました。大宰府を守るために築かれた、全長約1.2kmにおよぶ巨大な土塁と、背後の山に築かれた朝鮮式山城の組み合わせとして正しいものはどれですか。 （2025年 茨城公立入試 類似）
1. 水城と大野城 2. 鴻臚館と多賀城 3. 屋島城と基肄城 4. 金田城と板付遺跡
- 問9 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 （2015年 大分県公立入試 類似）
1. 遣隋使 2. 遣唐使 3. 遣明使 4. 朝鮮通信使
- 問10 白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。その際、九州の大宰府を守るために築かれた土塁と堀の名称、および九州沿岸の警備についた兵士の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 （2024年 香川公立入試 類似）
1. 水城（みずき） — 防人（さきもり）
2. 多賀城（たがじょう） — 健児（こんでい）
3. 屋島城（やしまのき） — 東山道兵
4. 山城（やまじろ） — 武士（ぶし）
- 問11 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 （2023年 島根公立入試 類似）
1. 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため
2. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため
3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため
4. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため
- 問12 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 （2021年 島根公立入試 類似）
1. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。
2. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。
3. 地方を治める国司が、天皇の代替わりのたびに新しい行政拠点として建立した。
4. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿弥陀堂を建立した。
- 問13 7世紀後半、皇位継承をめぐって起こった古代最大の内乱である「壬申の乱」に勝利し、即位した天皇が行った政策として最も適切なものはどれか。 （2021年 埼玉公立入試 類似）
1. 日本最初の銅銭とされる富本銭を鑄造し、天皇を中心とする強力な支配体制を築いた。
2. 冠位十二階を定め、才能のある人物を役人に登用する道を開いた。
3. 武士の力を抑えるために、全国に国分寺や国分尼寺を建てるよう命じた。
4. 和同開珎を鑄造し、唐の長安をモデルとした平城京へと都を移した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 庚寅年籍	白村江の戦いで敗北後、唐や新羅による日本侵攻の脅威が高まったため、天武天皇は強力な軍事・財政基盤を必要としました。そこで、人々の身分を確定させ、兵役や税の徴収を確実に 行うための基礎資料として全国的な戸籍である「庚寅年籍」の作成を命じました。これにより、豪族が個別に支配していた人民を天皇が直接支配する中央集権化が大きく進みました。
問2	答え 1 唐や新羅による侵攻の危機に直面したため、 天皇中心の中持集権国家を急いで確立し、国 力を強化しようとした。	強大な唐・新羅連合軍に敗れたことで、当時の日本は国家存亡の危機感を抱きました。そのた め、従来の豪族たちの連合体という不安定な組織から、天皇に権力を集中させ、全国の土地と 人民を直接支配する「公地公民」の仕組み（律令国家）へと急速に移行させる必要が生じまし た。近江大津宮への遷都や、その後の天武天皇・持統天皇による政治改革は、この国防上の危 機への対応という側面を持っています。
問3	答え 1 唐と新羅	663年、日本（倭）は百済を再興させるために軍を派遣しましたが、中国大陸を統一した唐と 、朝鮮半島東部の新羅による連合軍に敗北しました。この結果、日本は朝鮮半島への影響力を 失い、国内では唐などの侵攻に備えて大宰府に水城を築くなど、国防体制を急いで整えること となりました。
問4	答え 1 白村江の戦いで敗戦後、国内の守りを固め る必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を 握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整 備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を 強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要に迫られました。その後、672年に起 きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的 な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問5	答え 2 天武天皇	大海人皇子（のちの天武天皇）は、天智天皇の子である大友皇子との争いに勝利して即位しま した。この乱を通じて豪族の勢力を抑えることに成功し、法（律令）に基づいた国家運営を推 進する強い権力を手にしました。
問6	答え 1 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中 央集権体制の基礎を築こうとした。	当時の日本は有力な豪族が勢力を争っており、政治の混乱が続いていました。聖徳太子は、役 人が守るべき道徳や心得を示すことで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心としたまとまりの ある国を作ろうと考えました。仏教や儒教の教えが取り入れられているのは、それらが普遍的 な倫理観として、豪族を教化し国家を統合するのに適していたためです。
問7	答え 1 豪族たちを天皇を頂点とする新たな序列に組 み替えるため、八色の姓を定めた。	天武天皇は壬申の乱の勝利を経て、それまでの氏姓制度を再編成し、天皇を中心とした官僚体 制を整えるために「八色の姓（やくさのかばね）」を定めました。これにより、豪族たちは天 皇に仕える身分として明確にランク付けされることとなりました。蘇我氏を滅ぼしたのは中大 兄皇子（天智天皇）らによる大化の改新の始まりであり、藤原京の完成は持統天皇の時代、土 地の私有化（墾田永年私財法）は聖武天皇の時代のことです。
問8	答え 1 水城と大野城	663年の白村江の戦いで大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、唐や新羅の日本侵攻を恐れ、九 州の政治拠点である大宰府の防衛を急ぎました。平地には「水城」と呼ばれる巨大な土塁を築 いて敵の進軍を阻み、山の上には「大野城」などの山城を築いて防衛を固めました。これらの 施設は、当時の緊迫した国際情勢を反映しています。
問9	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。 これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから 法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問10	答え 1 水城（みづき） ― 防人（さきもり）	大敗を喫した天智天皇は、唐や新羅が日本へ攻めてくることを恐れ、九州の政治の拠点であっ た大宰府の北側に巨大な堤防である「水城」を築きました。また、瀬戸内海沿いに朝鮮式山城 を築いて防衛線を整え、東国などから集められた「防人」を九州北部の沿岸警備に配置しまし た。
問11	答え 1 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が 全国の土地と人民を直接把握することで、徴 税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の 豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与 える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保す ることを狙いとしていました。
問12	答え 1 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に 示すため、一族の氏寺として建立了た。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最 新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「 豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選挙肢 にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国 分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。
問13	答え 1 日本最初の銅銭とされる富本銭を鑄造し、天 皇を中心とする強力な支配体制を築いた。	天武天皇は、天智天皇の死後に起こった壬申の乱において、大友皇子を破って即位しました。 この勝利によって強大な権力を得た天武天皇は、豪族を抑えて天皇に権力を集中させる中央集 権的な政治を推進しました。また、飛鳥池遺跡などの調査から、この時期に日本最古の貨幣と される富本銭がつくられたことが明らかになっています。冠位十二階は聖徳太子、国分寺の建 立は聖武天皇、平城京遷都は元明天皇の事績です。

- 問1 7世紀後半、皇位継承をめぐる起きた「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 天武天皇 2. 天智天皇 3. 聖徳太子 4. 桓武天皇
- 問2 飛鳥文化が栄えた時代の歴史的な出来事について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 滋賀公立入試 類似)
1. 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。 2. 鑑真が来日して唐招提寺を建立し、仏教の正しい戒律が日本に伝えられた。 3. 聖武天皇が国ごとに国分寺を建て、奈良に東大寺の大仏を造立させた。 4. 空海や最澄が唐から新しい仏教を伝え、比叡山や高野山に寺院が開かれた。
- 問3 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 (2015年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 遣唐使 3. 遣明使 4. 朝鮮通信使
- 問4 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。 (2025年 岡山公立入試 類似)
1. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた 2. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した 3. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした 4. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した
- 問5 天武天皇の時期に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 香川公立入試 類似)
1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため 2. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため 3. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため 4. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため
- 問6 法隆寺の建築に見られる特徴や背景について説明したものとして、歴史的事実に基づき最も適切な記述を選んでください。 (2024年 愛媛公立入試 類似)
1. 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。 2. 平安時代の貴族たちが好んだ日本独自の様式である「寝殿造」を取り入れ、庭園との調和を重視している。 3. 鎌倉時代に武士の間で流行した禅宗の影響を受け、装飾を排した質実剛健な造りとなっている。 4. 室町時代の文化背景をもとに、現代の和風建築の原型となった「書院造」の様式で建てられている。
- 問7 聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 三重公立入試 類似)
1. 飛鳥文化 2. 天平文化 3. 国風文化 4. 東山文化
- 問8 律令に基づく統治体制では、全国を「国・郡・里」の単位に分け、中央政府が地方を直接支配する仕組みが整えられました。この時、都から各地方へ派遣され、法や規定に基づいて徴税や裁判などの行政を担った役職の名称として正しいものはどれか。 (2023年 京都公立入試 類似)
1. 地頭 2. 国司 3. 守護 4. 検非違使
- 問9 645年に始まった政治改革において、中大兄皇子らが進めた「天皇を中心とした国づくり」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)
1. 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した 2. 地方の豪族に土地の支配権を完全に委ねることで、各地域の農業生産力を向上させた 3. 武士の力を結集して幕府を開き、貴族に代わって武家が政治の主導権を握る仕組みを作った 4. 実力のある人物を役人に登用するため、冠位十二階の制度をより強化して豪族の特権を認めた
- 問10 日本の歴史において、古代の律令国家の形成期と、近代の明治維新期の両方で共通して見られた「中央集権体制」の構築に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 福井公立入試 類似)
1. 地方の有力者が所有する私有地を認め、その土地の管理を各地域に任せることで国家の安定を図った。 2. それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。 3. 権限を地方の役所に分散させることで、地域の事情に合わせた柔軟な政治運営を行おうとした。 4. 武士や貴族が土地を世襲的に支配する権利を強化し、身分制度に基づく統治を徹底した。
- 問11 6世紀後半の飛鳥時代において、大陸から伝わった仏教の受容を積極的に進めた蘇我氏と、日本の伝統的な神を重んじてこれに反対し、最終的に軍事衝突の末に滅ぼされた有力な豪族はどこか。 (2025年 岡山公立入試 類似)
1. 物部氏 2. 山名氏 3. 中臣氏 4. 大伴氏
- 問12 飛鳥時代の略年表において、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた直後の時期に行われた国防政策として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 大宰府周辺に水城を築き、各地に山城を建設して防人を配置した。 2. 全国に国分寺・国分尼寺を建立し、仏教の力で国家の安定を図った。 3. 元寇の襲来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築いた。 4. 院政を開始し、北面の武士を設置して上皇の警護を強化した。
- 問13 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は天皇中心の国づくりを進めるため、当時中国を統一していた隋に使節を派遣しました。この使節の代表として大陸へ渡り、進んだ制度や文化を日本に持ち帰る役割を担った人物は誰ですか。 (2024年 奈良公立入試 類似)
1. 小野妹子 2. 鑑真 3. 空海 4. 中大兄皇子
- 問14 天武天皇が進めた政策のうち、国家の正当性を示し、天皇の権威を強化する目的で行われた事業として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大阪公立入試 類似)
1. 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。 2. 仏教の力で国家の混乱を鎮めるため、東大寺の大仏造立や全国への国分寺建立を命じた。 3. 律令制度を完成させるため、日本で最初の本格的な法律である大宝律令を制定した。 4. 新しい政治の形を整えるため、唐の長安をモデルとした平城京への遷都を断行した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐって争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問2	答え 1 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。	飛鳥文化の背景には、遣隋使の派遣によって中国（隋）の進んだ文化や仏教が直接導入されたことがあります。鑑真や聖武天皇の事績は8世紀の奈良時代（天平文化）、空海や最澄の活動は9世紀初めの平安時代（弘仁・貞観文化）の出来事であり、飛鳥文化とは時期が異なります。
問3	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問4	答え 1 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問5	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問6	答え 1 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。	法隆寺が建立された飛鳥時代は、仏教の伝来とともに、中国（南北朝時代や隋）や朝鮮半島の百濟などの技術が積極的に導入された時期です。法隆寺の柱に見られる「エンタシス（中央のふくらみ）」などの特徴は、遠くギリシャの神殿建築の影響がシルクロードを経て伝わったものと言われており、当時の国際色豊かな文化背景を示しています。寝殿造や書院造は、より後世の時代に成立した建築様式です。
問7	答え 1 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見えて取ることができます。
問8	答え 2 国司	律令体制のもとでは、中央から派遣された「国司」が、各地方の政治を担当しました。現在の地名に残る「国領」などの言葉は、国司が管理した土地に由来することが多く、地方豪族が私有地を支配する形態から、国家が土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則に基づく体制へと移行したことを示しています。
問9	答え 1 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した	大化の改新では、当時の中国（唐）の制度を参考に、それまで豪族が個別に支配していた土地や人民を国家が直接管理する「公地公民」の制度を目指しました。これにより、全国的な徴税や戸籍の作成が可能になり、天皇による中央集権体制の基礎が築かれました。
問10	答え 2 それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。	律令国家における「公地公民」の原則と、明治新政府による「版籍奉還」や「廃藩置県」は、どちらも土地と人民の支配権を中央へ集中させることを目的とした政策です。古代では豪族、近代では大名という、それまでの地方支配者の権利を否定し、中央政府が直接的に国民を統治し、税を徴収する仕組み（中央集権体制）を整えようとした点が共通しています。
問11	答え 1 物部氏	古墳時代から飛鳥時代にかけて、政治の実権をめぐり有力な豪族の間で激しい争いが起こりました。仏教を新しい統治の道具として取り入れようとした蘇我氏に対し、軍事や刑罰を司り伝統を重んじた物部氏は強く反対しました。この対立は「崇仏論争」と呼ばれ、最終的に蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしたことで、日本における仏教受容の流れが決定的となりました。
問12	答え 1 大宰府周辺に水城を築き、各地に山城を建設して防人を配置した。	白村江の戦いでの敗北後、中大兄皇子（天智天皇）は緊迫した国際情勢に対応するため、急速に防衛体制を整えました。福岡県の大宰府周辺に築かれた水城や、西日本各地の山城は、敵軍の上陸や進撃を阻止するための施設です。また、沿岸部の警備として防人を配置したことも、この時期の重要な特徴です。
問13	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、当時の先進国であった隋の優れた政治体制や仏教文化を取り入れることで、日本の国家としての地位を高めようとしていました。小野妹子はその代表的な使節（遣隋使）として抜擢され、対等な外交を目指す国書を携えて海を渡りました。これにより、後の大化の改新などにつながる重要な知識や技術が日本にもたらされました。
問14	答え 1 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。	天武天皇は、壬申の乱を経て確立した自らの政権の正統性を国内外に示すため、国家の歴史編纂を命じました。これが後に『古事記』や『日本書紀』として完成します。また、この時期に「天皇」という称号や「日本」という国号が本格的に使われ始めたと考えられており、これらは中央集権体制を象徴する重要な動きとなりました。

- 問1 天智天皇の後継者争いに勝利して即位した天武天皇が、その後の政治において目指した国家のあり方として、最も適切な説明はどれですか。
(2026年 三重公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設 | 2. 有力な貴族が政治の実権を握り、天皇を補佐する摂関政治の確立 | 3. 地方の豪族がそれぞれの土地を私有し、独立した権限を持つ封建制の導入 | 4. 武士が政治の表舞台に立ち、幕府を開いて軍事力を中心に統治する仕組み |
|------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 問2 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。
(2016年 愛媛公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた | 2. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ | 3. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大将軍に任じた | 4. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた |
|--|---|---|--|
- 問3 法隆寺の五重塔などの伝統的な建築物には、地震の揺れを逃がす仕組みとして「心柱（しんばしら）」という技術が使われています。この心柱の構造を応用し、中心部に鉄筋コンクリート製の筒を配置して制振効果を高めている現代の建造物を選びなさい。
(2020年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|---------|----------|-----------|
| 1. 東京スカイツリー | 2. 瀬戸大橋 | 3. 東京都庁舎 | 4. 明石海峡大橋 |
|-------------|---------|----------|-----------|
- 問4 現存する世界最古の木造建築である法隆寺の金堂に安置されている、釈迦三尊像などの仏像に見られる彫刻様式の特徴を説明したものとして適切なものはどれか。
(2017年 岐阜公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 中国の北魏などの影響を受け、アーモンド形の目や、アルカイック・スマイルと呼ばれるかすかな微笑みが表現されている。 | 2. 平安時代の貴族の好みを反映し、奇木造の技法によって穏やかで優美な表情に仕上げられている。 | 3. 鎌倉時代の武士の力強さを象徴し、血管や筋肉の動きを写実的に表現した力強い造形である。 | 4. 唐の時代の豊かな影響を受け、丸みを帯びた顔立ちと豊満な体格が強調された写実的な様式である。 |
|---|---|---|--|
- 問5 645年、中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおしたことをきっかけに始まった政治改革では、どのような国家体制を目指したか。最も適切なものを選びなさい。
(2019年 香川公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 天皇を中心とした中央集権的な国づくり | 2. 有力な豪族による合議制に基づいた政治 | 3. 武士が政治の実権を握る封建的な仕組み | 4. 外国の王をトップに据えた国際的な統治 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
- 問6 7世紀後半に起こった壬申の乱について、その出来事背景や結果を説明した文として最も適切なものはどれか。
(2017年 高知公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。 | 2. 地方武士の不満が高まったことで発生し、平将門が関東で自ら「新皇」を名乗って朝廷に反旗を翻した。 | 3. 天皇を退位したあとも政治の実権を握ろうとした白河上皇が、藤原氏の摂関政治を抑えるために院政を開始した。 | 4. 仏教勢力の影響を排除し、政治を立て直すために、桓武天皇が都を平城京から平安京へと移した。 |
|--|--|--|---|
- 問7 7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。
(2020年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|-----------|
| 1. 高句麗 | 2. 新羅 | 3. 百濟 | 4. 加耶（任那） |
|--------|-------|-------|-----------|
- 問8 天智天皇が白村江の戦いでの敗北後に進めた、国家体制を整えるための改革において、670年に作成された日本初の全国的な戸籍の名称として正しいものを選びなさい。
(2026年 埼玉公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 庚午年籍 | 2. 庚寅年籍 | 3. 大宝律令 | 4. 班田収授法 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問9 672年に発生した古代日本最大の内乱である「壬申の乱」は、どのような状況下で起こった出来事ですか。その背景として最も適切な説明を選びなさい。
(2019年 香川公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。 | 2. 聖徳太子の死後、蘇我氏が政治の実権を握り、独裁的な政治を行ったことに不満が募った。 | 3. 大化の改新を進める中大兄皇子に対して、旧勢力の貴族たちが一斉に反旗を翻した。 | 4. 唐と新羅の連合軍に敗れた後、国防体制の整備をめぐって朝廷内が二つの勢力に分かれた。 |
|---|--|---|--|
- 問10 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。
(2020年 奈良公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。 | 2. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。 | 3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百濟を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。 | 4. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。 |
|---|---|---|---|
- 問11 律令制度に基づく中央官制において、神事をつかさどる神祇官とともに、政治の最高機関として位置づけられた組織を何といいますか。その下に八省を従え、実務を統括した名称を答えなさい。
(2024年 山梨公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|----------|--------|
| 1. 太政官 | 2. 摂政 | 3. 六波羅探題 | 4. 評定衆 |
|--------|-------|----------|--------|
- 問12 663年、日本（倭）は朝鮮半島の南西部に位置していた国を復興させるために大軍を派遣しましたが、中国大陆の唐と朝鮮半島の新羅による連合軍に大敗しました。この出来事を何といいますか。
(2024年 香川公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|----------|---------|
| 1. 白村江の戦い | 2. 壬申の乱 | 3. 刀伊の入寇 | 4. 文永の役 |
|-----------|---------|----------|---------|
- 問13 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸皇子）は、冠位十二階の制定とともに「十七条の憲法」を定めました。この法令が制定された主な目的として最も適切なものはどれですか。
(2024年 静岡公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1. 天皇の命令に従うことなど、役人が守るべき道徳や政治を行う上での心構えを示すため | 2. 新しく開墾した土地を、期限を設けずに永久に私有することを認めるため | 3. モンゴル帝国のフビライ・ハンによる侵攻に備え、全国の武士を統制するため | 4. 戦後の民主主義に基づき、個人の尊厳を重んじる教育の理念を確立するため |
|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設	壬申の乱に勝利して絶大な権力を手にした天武天皇は、それまでの豪族たちの勢力を抑え、天皇に権力を集中させることを目指しました。この方針は後の大宝律令の完成へとつながり、日本における法に基づく統治（律令国家）の基礎となりました。
問2	答え 1 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問3	答え 1 東京スカイツリー	五重塔の内部には中心を貫く独立した「心柱」があり、各層と固定されていないために地震の際に揺れを相殺する役割を果たしています。この古代からの知恵は、高さ634メートルを誇る東京スカイツリーの設計において「心柱制振」という最新技術として活用されており、歴史的な伝統技術が現代の先端建築の安全性を支える貴重な事例となっています。
問4	答え 1 中国の北魏などの影響を受け、アーモンド形の目や、アルカイク・スマイルと呼ばれるかすかな微笑みが表現されている。	飛鳥文化の仏像、特に法隆寺金堂の釈迦三尊像は、鞍作止利（止利仏師）によって制作された。中国の北魏の様式を継承しており、左右対称の幾何学的な衣のひだや、独特の微笑みを浮かべた表情にその特徴が見て取れる。
問5	答え 1 天皇を中心とした中央集権的な国づくり	蘇我氏を打倒した後に始まった大化の改新は、それまで有力豪族が持っていた権力を集約し、天皇を中心とした新しい国づくりを目指すものでした。この改革により、土地や人民を国家が直接支配する「公地公民」などの制度が整えられていきました。
問6	答え 1 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。	壬申の乱は、大化の改新から続く律令国家形成の過程で発生した極めて重要な内乱です。勝利した天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から、天皇に権力を集中させる政治体制へと移行させ、後の大宝律令の完成へとつながる基礎を固めました。他の選択肢は、8世紀末から11世紀にかけての異なる時代の出来事です。
問7	答え 1 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へと向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすことになります。
問8	答え 1 庚午年籍	天智天皇は、唐や新羅の連合軍が百済を滅ぼし、その後の白村江の戦いで日本軍を破ったことを受け、日本国内の統治を急ぎ強化しました。その具体的な施策として作成されたのが「庚午年籍」です。これにより、それまで氏姓制度によって豪族が支配していた人民を、国家が直接把握する仕組みが作られ始めました。選択肢にある「庚寅年籍」は持統天皇の時代に作成されたものであり、区別が必要です。
問9	答え 1 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐり、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問10	答え 1 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問11	答え 1 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問12	答え 1 白村江の戦い	660年に唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた百済を復興させるため、日本は大規模な援軍を送りましたが、朝鮮半島の白村江（はくすきのえ）で大敗を喫しました。この敗戦の結果、日本は朝鮮半島における影響力を失い、国内の守りを固める政策へと転換することになります。
問13	答え 1 天皇の命令に従うことなど、役人が守るべき道徳や政治を行う上での心構えを示すため	聖徳太子は、豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くことを目指しました。そのため、役人が守るべき道徳的な規範として「十七条の憲法」を定め、「和を以て貴しとなす」という精神や、天皇の命令への服従を説きました。土地の私有を認めたのは奈良時代の墾田永年私財法、教育の理念については戦後の教育基本法の内容です。

- 問1 天智天皇が政治の拠点として定めた場所は、現在の滋賀県にある琵琶湖付近に位置しています。この都の名称として正しいものを選びなさい。
(2021年 滋賀公立入試 類似)
1. 大津宮 2. 飛鳥浄御原宮 3. 難波宮 4. 藤原京
- 問2 中大兄皇子が中臣鎌足らとともに蘇我氏を倒し、天皇を中心とする国づくりを目指して始めた一連の政治改革において、目指すべき国家像を説明したのとして最も適切なものを選びなさい。
(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 土地と人民は国家（天皇）が所有・管理するという「公地公民」の原則に基づく中央集権国家 2. 鉄製の農具や武具を独占した「ワカタケル」のような強力な大王が各地の豪族を力で従える軍事国家 3. 仏教の力を政治に利用するため、全国に国分寺を建立し、僧侶を官吏として登用する宗教国家 4. 地方の有力な武士団に土地の支配権を認め、朝廷はその仲裁役としてのみ機能する封建国家
- 問3 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が連合して勢力を拡大していました。660年に滅亡したある国を再興させるため、日本（倭）は大規模な軍隊を派遣して唐・新羅の連合軍と戦いましたが、663年の白村江の戦いで大敗を喫しました。日本が復興を支援したこの国はどこですか。
(2023年 福島県公立入試 類似)
1. 百済 2. 高句麗 3. 新羅 4. 加羅（任那）
- 問4 645年に始まった大化の改新では、天皇を中心とする新しい国家体制の構築が目指されました。この改革において、遣隋使や遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ政治制度や法律を学んで帰国した留学生や学問僧が任命された、政治の助言を行う重要な役職の名称として正しいものはどれですか。
(2024年 東京都公立入試 類似)
1. 国博士 2. 檢非違使 3. 執権 4. 防人
- 問5 7世紀初めに小野妹子らが使節として中国の隋へ送られた背景として、当時の日本が目指していたことについて述べたものとして最も適切な説明はどれですか。
(2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため 2. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらうため 3. 中国の軍事力を背景に、朝鮮半島の新羅を攻撃するため 4. 中国で流行していた禅宗の教えを、僧に学ばせるため
- 問6 聖徳太子が制定した「十七条の憲法」の目的として、当時の政治的な背景から考えて最も適切な説明はどれか。
(2024年 徳島公立入試 類似)
1. 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。 2. 氏姓制度を維持するために、有力な豪族が代々高い官職を独占することを認めた。 3. 唐の優れた法律にならい、日本で初めてとなる刑罰のきまりと政治の仕組みを明文化した。 4. 神話の時代から続く天皇の歴史を記録することで、天皇による統治の正当性を内外に示した。
- 問7 7世紀初め、聖徳太子（厩戸王）らが中央集権的な国家体制を整えるために定めた、個人の才能や功績に応じて位階を受ける制度を何といいますか。
(2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 冠位十二階 2. 十七条の憲法 3. 公地公民 4. 班田收授法
- 問8 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。
(2023年 福島県公立入試 類似)
1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。 2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。 3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。 4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。
- 問9 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。
(2023年 秋田県公立入試 類似)
1. 唐 2. 隋 3. 宋 4. 元
- 問10 7世紀、日本は友好関係にあった百済が滅亡した際、その復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送りました。このとき、日本軍が白村江で戦い、大敗を喫した相手である二つの国の連合軍として正しいものを次の中から選びなさい。
(2023年 福井公立入試 類似)
1. 唐と新羅 2. 隋と新羅 3. 唐と高句麗 4. 元と高麗
- 問11 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。
(2025年 茨城公立入試 類似)
1. 唐・新羅の連合軍 2. 唐・高句麗の連合軍 3. 新羅・高句麗の連合軍 4. 百済・新羅の連合軍
- 問12 飛鳥時代に聖徳太子が小野妹子を遣隋使として派遣した際、当時の日本（倭）が目的としていたことや、外交上の姿勢として正しい説明はどれか。
(2016年 香川公立入試 類似)
1. 中国の進んだ文化や制度を取り入れるとともに、従来の形式にとらわれない対等な立場での外交を目指した。 2. 唐の優れた律令制度を学ぶために、阿倍仲麻呂などの留学生を送り込み、国内の法整備を急いだ。 3. 後漢の皇帝に朝貢して金印を授かることで、九州地方にある奴国の支配力を強めようとした。 4. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号を得ることで、その武力を背景に邪馬台国による連合を維持しようとした。
- 問13 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。
(2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。 2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。 3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。 4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。
- 問14 聖徳太子が定めた十七条の憲法において、「天皇の命令を承った際には、必ず慎んでこれに従わなければならない」という趣旨の一節が記された主な理由として、最も適切なものはどれですか。
(2021年 鳥取公立入試 類似)
1. 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため 2. 大名の私的な婚姻を禁止し、幕府の統制を強めるため 3. 武士同士の領地争いを裁くための公平な基準を設けるため 4. 都市の工商業者に特権を与え、外国との貿易を盛んにするため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大津宮	中大兄皇子は、唐や新羅の侵攻に備えた防衛体制を整える中で、都をそれまでの飛鳥から滋賀県の琵琶湖近くにある大津宮（近江大津宮）へと移しました。この地で天智天皇として即位し、日本初の全国的な戸籍の編纂や、近江令と呼ばれる法令の制定など、国家体制の整備を進めました。
問2	答え 1 土地と人民は国家（天皇）が所有・管理するという「公地公民」の原則に基づく中央集権国家	大化の改新から始まる一連の改革は、それまで有力豪族が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」を理想としました。これは、特定の豪族に権力が集中するのを防ぎ、天皇を中心とした組織的な国家を建設することが目的でした。
問3	答え 1 百済	唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた百済を救うため、中大兄皇子（天智天皇）は百済の遺臣らからの要請に応じ、援軍を送りました。しかし、白村江の戦いで敗れたことにより、百済の復興は果たせませんでした。その後、日本は唐・新羅の侵攻に備え、九州に防人（さきもり）を配置したり、水城（みづき）を築いたりするなど、国内の防衛体制を急速に整えることとなりました。
問4	答え 1 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問5	答え 1 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問6	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。	当時の政治は有力豪族である蘇我氏などが強い勢力を持っていましたが、聖徳太子は官吏（役人）の心得を定めることで、個々の豪族が勝手な行動を慎み、天皇に忠実に仕える体制を整えようとした。同時に導入された「冠位十二階」とともに、家柄にとらわれない中央集権的な国家づくりが意図されていました。
問7	答え 1 冠位十二階	この制度は、従来の家柄によって地位が決まる仕組みとは異なり、個人の實力を評価して役人を登用することを目的に導入されました。儒教の徳目に基づいた名称の冠を授けることで、官僚組織の基礎を築こうとした飛鳥時代の重要な改革の一つです。
問8	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぎきっかけとなりました。
問9	答え 1 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。
問10	答え 1 唐と新羅	663年、日本（倭）は百済を再興させるために軍を派遣しましたが、中国大陆を統一した唐と、朝鮮半島東部の新羅による連合軍に敗北しました。この結果、日本は朝鮮半島への影響力を失い、国内では唐などの侵攻に備えて大宰府に水城を築くなど、国防体制を急いで整えることとなりました。
問11	答え 1 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問12	答え 1 中国の進んだ文化や制度を取り入れるとともに、従来の形式にとらわれない対等な立場での外交を目指した。	聖徳太子による遣隋使の派遣は、進んだ制度や仏教文化を導入する目的のほか、中国の皇帝に対して対等な立場で国交を結ぼうとした点に大きな特徴があります。阿倍仲麻呂は後の時代の「遣唐使」に同行した人物であり、奴国や卑弥呼の事例はより古い時代の外交目的です。
問13	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問14	答え 1 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため	当時は有力な豪族が力を持ち、政治的な対立が続いていました。聖徳太子は、冠位十二階によって才能ある人材を登用するとともに、十七条の憲法によって役人が天皇に従うべき道徳的な規範を明文化し、国家としてのまとまりを強化しようとした。

- 問1 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に定められた「冠位十二階」の制度について、その目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため
 2. 有力な豪族に対し、代々特定の役職に就く特権を認めるため
 3. 戸籍を作成して人々に土地を割り当て、税の徴収を確実にするため
 4. 仏教の教えを政治の基本とし、国民全体の道徳を高めるため
- 問2 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。（2025年 茨城公立入試 類似）
1. 唐・新羅の連合軍
 2. 唐・高句麗の連合軍
 3. 新羅・高句麗の連合軍
 4. 百済・新羅の連合軍
- 問3 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 島根公立入試 類似）
1. 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため
 2. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため
 3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため
 4. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため
- 問4 飛鳥時代から奈良時代へと至る時期に起きた次の4つの出来事について、時期の古いものから順に正しく並んでいるものはどれか。（2022年 千葉県公立入試 類似）
1. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱
 2. 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 壬申の乱 → 白村江の戦いでの敗北
 3. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒
 4. 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 聖武天皇による国分寺建立の詔
- 問5 「白村江の戦い」「壬申の乱」「藤原京への遷都」の3つの出来事を、時期の古い順に正しく並べたものはどれですか。（2020年 奈良公立入試 類似）
1. 白村江の戦い → 壬申の乱 → 藤原京への遷都
 2. 壬申の乱 → 白村江の戦い → 藤原京への遷都
 3. 藤原京への遷都 → 白村江の戦い → 壬申の乱
 4. 白村江の戦い → 藤原京への遷都 → 壬申の乱
- 問6 663年の白村江の戦いにおいて、倭（日本）は百済の復興を支援しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北を受け、大宰府周辺の守りを固めるために佐賀県に築かれた「基肄城（きいじょう）」などの山城には、どのような背景や目的がありましたか。（2019年 佐賀公立入試 類似）
1. 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。
 2. 租・庸・調などの重い税負担に苦しんだ農民たちの反乱を鎮圧し、大宰府の役人が地方を監視する拠点とする目的。
 3. 朝鮮半島への再出兵を計画するための軍事訓練施設として、大陸に近い九州北部の山岳地帯に兵力を集結させる目的。
 4. 仏教による国家の鎮護を目的として、大宰府を望む山の上に広大な寺院や仏塔を建設し、外敵を退散させる祈禱を行う目的。
- 問7 聖徳太子（厩戸皇子）が「十七条の憲法」を制定した背景には、当時の政治的な課題を解決する狙いがありました。この法令を通じて太子が実現しようとした「国家のあり方」として、最もふさわしい説明はどれですか。（2024年 静岡公立入試 類似）
1. 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家
 2. 地方の農民に土地の私有権を認め、それぞれの生活を安定させることで成り立つ地方分権的な国家
 3. 海外の十字軍派遣の動きに合わせ、キリスト教を国教として受け入れる宗教的な国家
 4. 国民の選挙によって選ばれた代表者が、議会で法律を決定する立憲民主主義的な国家
- 問8 日本の歴史における主な出来事を時系列順に整理したとき、7世紀中頃に中大兄皇子らが中心となって進めた、天皇中心の国づくりを目指す一連の政治改革にあたるものはどれか。（2022年 青森県公立入試 類似）
1. 大化の改新
 2. 聖徳太子の政治
 3. 聖武天皇の仏教政策
 4. 桓武天皇の平安京遷都
- 問9 聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した際、隋の皇帝に宛てた国書の中に「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す、恙なきや」という一節がありました。このような表現を用いて使節を派遣した聖徳太子の意図として、最も適切な説明を選んでください。（2022年 和歌山公立入試 類似）
1. 隋の皇帝の臣下として認めてもらい、朝鮮半島での軍事的優位を確保するため
 2. 当時の中国の圧倒的な武力を背景に、日本の統治権を委ねる意思を示すため
 3. 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため
 4. 隋で流行していた新しい仏教の経典を、日本へ無償で提供してもらうため
- 問10 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
1. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
 2. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
 3. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。
 4. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。
- 問11 7世紀後半、天智天皇が亡くなった後に発生した「壬申の乱」の直接的な原因として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 愛知公立入試 類似）
1. 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立
 2. 地方で武士団が組織できるほどに成長し、土地の支配権をめぐる朝廷に反旗を翻したこと
 3. 重い税や労役を課しながらも人々を救おうとしない役人の政治に対し、農民が結集して抵抗したこと
 4. 大陸との国交を開きそうとする勢力と、積極的に文化を取り入れようとする勢力の外交方針の対立
- 問12 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2018年 富山県公立入試 類似）
1. 唐と新羅
 2. 隋と高句麗
 3. 元と高麗
 4. 宋と新羅
- 問13 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何というか、名称を答えなさい。（2021年 三重公立入試 類似）
1. 白村江の戦い
 2. 壇ノ浦の戦い
 3. 桶狭間の戦い
 4. 長篠の戦い

答え合わせ・解説

問1	答え 1 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため	それまでの日本の政治では、特定の氏族が代々決まった役職を引き継ぐ「氏姓制度」が中心でしたが、聖徳太子は個人の實力を重視するこの制度を導入しました。これにより、天皇に従順で有能な人材を役人として集め、天皇中心の国づくりを進める狙いがありました。選択肢にある土地の割り当ては、後の「班田収授法」の内容です。
問2	答え 1 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問3	答え 1 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保することを狙いとしていました。
問4	答え 1 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱	まず7世紀初頭、聖徳太子によって法隆寺が建立されました。その後、645年に中大兄皇子らが蘇我氏を倒して大化の改新が始まり、663年に朝鮮半島での白村江の戦いに敗れました。天智天皇（中大兄皇子）の死後、672年に皇位継承をめぐる起きた内乱が壬申の乱です。聖武天皇による国分寺建立の詔は、さらに後の奈良時代の出来事です。当時の日本が対外的な敗戦や内部の争いを経て、天皇中心の律令国家を形成していった流れを理解することが重要です。
問5	答え 1 白村江の戦い → 壬申の乱 → 藤原京への遷都	まず663年に、百済の復興を助けるために朝鮮半島へ出兵した「白村江の戦い」が起きました。その約9年後の672年に、天智天皇の後継者を巡る内乱である「壬申の乱」が発生しました。この乱に勝利した天武天皇の意志を引き継ぎ、持統天皇が694年に中国の都にならった大規模な「藤原京」へと遷都しました。藤原京への遷都は、白村江の戦いや壬申の乱よりも後の出来事です。
問6	答え 1 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた倭（日本）は、強大な勢力が海を越えて攻めてくることを非常に恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の防衛を急ぎ、大宰府の北側に水城（みずき）という堤防を築き、周辺の山々には大野城や基肄城（きいじょう）といった朝鮮式山城を築かせました。これは、対外的な緊張感が高まったことで、国内の政治体制をより一層中央集権化（律令国家への移行）させる大きな動機の一つとなりました。
問7	答え 1 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家	当時の日本は有力な豪族が独自の力を持ち、勢力争いを繰り返していました。聖徳太子はこうした状況を打破し、中国（隋など）のような組織立った国家を作るため、役人の地位を明確にする冠位十二階と、その倫理規定である十七条の憲法をセットで運用しました。これにより、豪族たちを「天皇に仕える役人」へと再編し、国家としての統一感を高めようとしたのです。
問8	答え 1 大化の改新	645年に中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足らが蘇我氏を倒した乙巳の変に始まり、唐の制度を取り入れて進められた一連の改革を指します。豪族が土地や人民を私有するそれまでの体制を改め、天皇を中心とする中央集権国家の建設を目指しました。
問9	答え 3 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため	それまでの日本の外交は、中国の皇帝から称号を授かることで地位を認めてもらう「朝貢」の形式が一般的でした。しかし、聖徳太子は自らを「日出づるところの天子」と称し、隋の皇帝と対等の立場で交流しようとしていました。これには、日本の独立性を高めつつ、高度な技術や制度を吸収しようという目的がありました。
問10	答え 1 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問11	答え 1 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立	天智天皇の死後、その弟である大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が、次の皇位をめぐる争ったことがこの乱の本質です。当時はまだ皇位継承のルールが明確に確立されておらず、一族間で深刻な対立を招く背景がありました。この乱に勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇中心の中央集権体制をさらに強化していくことになりました。他の選択肢にある武士の台頭や農民一揆などは、より後世の時代に見られる特徴です。
問12	答え 1 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問13	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。

- 問1 日本の歴史上の出来事を整理した略年表において、古墳時代の大和政権による統一が進んだ後、平安時代の荘園の形成よりも前の時期に位置づけられる出来事として正しいものはどれですか。（2018年 静岡公立入試 類似）
1. 天智天皇の死後の後継争いに勝利した天武天皇が即位した。
 2. 平清盛が武士として初めて太政大臣の地位に就いた。
 3. 北条泰時によって武士の慣習をまとめた御成敗式目が定められた。
 4. 鎖国の体制が固まり、長崎でのみオランダや中国との貿易が行われた。
- 問2 7世紀後半、百済の滅亡と白村江の戦いでの敗北という対外的な危機を受け、唐・新羅連合軍による日本への侵攻に備えて、九州北部の沿岸などの要所に配置された兵士を何と呼びますか。（2020年 広島公立入試 類似）
1. 衛士
 2. 防人
 3. 健児
 4. 武士
- 問3 推古天皇の治世における出来事として、聖徳太子や蘇我馬子とともに進められた政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 静岡公立入試 類似）
1. 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣
 2. 大宝律令の完成、平城京への遷都、和同開珎の鑄造
 3. 公地公民の制、班田収授法の実施、防人の設置
 4. 検地の実地、刀狩令の公布、身分統制令の発令
- 問4 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。
 2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。
 3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。
 4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。
- 問5 飛鳥時代に推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）が、役人の政治に対する心がまえを説くために制定した法は何ですか。「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗となせ」という、人々の和を尊重し、争わないことを第一に掲げたものを選びなさい。（2022年 沖縄公立入試 類似）
1. 十七条の憲法
 2. 五箇条の御誓文
 3. 御成敗式目
 4. 武家諸法度
- 問6 西暦による歴史の時代区分において、西暦601年から西暦700年までの100年間を指す名称として正しいものを選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）
1. 5世紀
 2. 6世紀
 3. 7世紀
 4. 8世紀
- 問7 飛鳥時代の出来事のうち、中大兄皇子（天智天皇）らによる大化の改新（645年）よりも前に起こった出来事はどれですか。（2026年 秋田公立入試 類似）
1. 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された
 2. 天武天皇が壬申の乱に勝利して実権を握った
 3. 桓武天皇によって平安京への遷都が行われた
 4. 正倉院に納められているような精緻な戸籍が全国で作られた
- 問8 小野妹子が中国の王朝である隋へ派遣された際、聖徳太子は「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という内容の国書を持たせました。この記述から読み取れる、当時の日本が隋に対してどのような外交姿勢をとろうとしていたか、最も適切なものを選びなさい。（2021年 三重公立入試 類似）
1. 隋の皇帝に従属し、周辺諸国の支配権を認めてもらう姿勢
 2. 隋の皇帝に対して臣下としての礼を尽くし、称号を求める姿勢
 3. 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢
 4. 隋の文化を拒絶し、日本独自の鎖国体制を築こうとする姿勢
- 問9 古代日本の国家形成の過程において、天智天皇の後継をめぐる混乱を経て、中央集権的な統治が強化されたことを示す歴史上の出来事はどれか。（2018年 岡山公立入試 類似）
1. 壬申の乱
 2. 白村江の戦い
 3. 承久の乱
 4. 保元の乱
- 問10 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）
1. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
 2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
 3. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
 4. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。
- 問11 7世紀後半、天智天皇が亡くなった後に発生した「壬申の乱」の直接的な原因として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 愛知公立入試 類似）
1. 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立
 2. 地方で武士団が組織できるほどに成長し、土地の支配権をめぐる朝廷に反旗を翻したこと
 3. 重い税や労役を課しながらも人々を救おうとしない役人の政治に対し、農民が結集して抵抗したこと
 4. 大陸との国交を開こうとする勢力と、積極的に文化を取り入れようとする勢力の外交方針の対立
- 問12 7世紀中ごろ、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒して始めた政治改革（大化の改新）ののち、即位して天智天皇となった彼の事績について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。
 2. 聖徳太子の摂政として冠位十二階や十七条の憲法を制定し、仏教を厚く保護して法隆寺などの寺院を建立した。
 3. 天武天皇のあとを継ぎ、律令国家の完成を目指して平城京に都を移し、和同開珎などの貨幣を鑄造させた。
 4. 壬申の乱で友皇子を破って即位し、強力な権力を持って飛鳥浄御原宮で新しい政治の仕組みを整えた。
- 問13 7世紀後半に起こった「壬申の乱」の経緯とその結果について述べた文として、正しいものはどれか。名称や関係性に注目して選びなさい。（2024年 高知公立入試 類似）
1. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。
 2. 中臣鎌足が中大兄皇子と協力して蘇我氏を倒し、大化の改新を開始した。
 3. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、憲法十七条や冠位十二階を制定した。
 4. 桓武天皇が新しい政治を行うため、都を平城京から平安京へと移した。
- 問14 6世紀後半の飛鳥時代において、大陸から伝わった仏教の受容を積極的に進めた蘇我氏と、日本の伝統的な神を重んじてこれに反対し、最終的に軍事衝突の末に滅ぼされた有力な豪族はどこか。（2025年 岡山公立入試 類似）
1. 物部氏
 2. 山名氏
 3. 中臣氏
 4. 大伴氏

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天智天皇の死後の後継争いに勝利した天武天皇が即位した。	日本の歴史の大きな流れにおいて、飛鳥時代は古墳時代と奈良・平安時代の間に位置します。この時期に起きた重要な出来事が壬申の乱であり、その結果としての天武天皇の即位です。略年表の順序をたどると、古墳時代の統一、飛鳥時代の天武天皇即位、平安時代の荘園形成や平清盛の台頭という流れになります。平清盛や御成敗式目、鎖国などはそれよりも後の時代の出来事です。
問2	答え 2 防人	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた日本は、国土防衛を強化するために九州北部に「防人」を置きました。主に東国の農民が徴集され、3年間の任期で国境の警備にあたりましたが、交通費や食料が自己負担とされるなど、その生活は非常に苦しいものでした。万葉集には、防人やその家族の悲しみを詠んだ「防人歌」が残されています。
問3	答え 1 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣	推古天皇・聖徳太子・蘇我馬子の協力体制下では、才能ある人材を登用する「冠位十二階」（603年）、役人の心得を説いた「十七条の憲法」（604年）、そして対等な外交を目指した「遣隋使」の派遣が行われました。これらはいずれも、飛鳥時代における国家基盤を強化するための重要な事例です。
問4	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問5	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、冠位十二階の制定とともに「十七条の憲法」を定め、天皇を中心とする中央集権国家の基盤を整えようとしてしました。この法は現在の憲法とは異なり、役人が守るべき道徳的な訓戒としての性格が強く、特に第一条で説かれた「和」の精神は、豪族間の争いを鎮める意図がありました。
問6	答え 3 7世紀	歴史上の世紀の数え方は、1世紀を1年から100年までと定義します。これに従うと、601年から700年までの期間は7番目の100年間となるため、7世紀と呼ばれます。西暦の百の位の数字に1を足すと、その年が何世紀かがわかります。
問7	答え 1 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された	遣隋使の派遣は607年に行われた出来事であり、645年の大化の改新よりも前です。壬申の乱（672年）や、721年の正倉院文書に見られるような律令制度に基づく戸籍の整備、そして794年の平安京遷都はすべて大化の改新よりも後の出来事です。
問8	答え 3 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢	聖徳太子は、当時の中国を中心とした国際秩序（冊封体制）に従うのではなく、日本を「日出づる処」、隋を「日没する処」と表現し、双方の君主を「天子」と呼ぶことで、対等な立場で外交を行おうとしました。これには、隋の力を背景にせずとも自立した国家であることを示す意図がありました。
問9	答え 1 壬申の乱	天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を倒した672年の壬申の乱が正解です。この勝利によって大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇の称号や「日本」という国号を使い始めるなど、律令国家としての骨組みを固めていきました。
問10	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問11	答え 1 天皇の死後、その皇位継承をめぐって親族や有力な一族の間で生じた対立	天智天皇の死後、その弟である大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が、次の皇位をめぐって争ったことがこの乱の本質です。当時はまだ皇位継承のルールが明確に確立されておらず、一族間で深刻な対立を招く背景がありました。この乱に勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇中心の中央集権体制をさらに強化していくことになりました。他の選択肢にある武士の台頭や農民一揆などは、より後世の時代に見られる特徴です。
問12	答え 1 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。	中大兄皇子（天智天皇）は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、対外防衛を最優先課題としました。そのため、博多湾を見下ろす大宰府に水城を、また西日本各地に朝鮮式山城を築き、防人を配置しました。あわせて都を近江の大津宮へ移し、670年には日本初の全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成して、徴兵や徴税の基盤を整え、中央集権化を進めました。他の選択肢は、聖徳太子、元明天皇、天武天皇の事績に関する記述です。
問13	答え 1 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。	天智天皇の死後、後継者をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子の間で武力衝突が起こりました。これが壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇となり、地方の豪族を従えて中央集権化を強めました。選択肢にある大化の改新や、聖徳太子の政策、平安京への遷都は、それぞれ異なる時期や人物による出来事です。
問14	答え 1 物部氏	古墳時代から飛鳥時代にかけて、政治の実権をめぐり有力な豪族の間で激しい争いが起こりました。仏教を新しい統治の道具として取り入れようとした蘇我氏に対し、軍事や刑罰を司り伝統を重んじた物部氏は強く反対しました。この対立は「崇仏論争」と呼ばれ、最終的に蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしたことで、日本における仏教受容の流れが決定的となりました。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 儒教	聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権体制を整えるため、役人の心得をまとめた十七条の憲法を制定しました。ここには、中国から伝わった孔子の思想である「儒教」の教えが強く反映されており、上下関係の秩序や礼儀（礼）を重んじることで、豪族たちの対立を防ぎ、国を安定させる狙いがありました。一方で、第二条にある「三宝を敬え」という記述は、仏教を重んじる姿勢を示しています。
問2	答え 1 防人	白村江の戦いでの敗北を受けて整備された防衛体制の一環として、九州の防備を担ったのが「防人」です。主に東国の農民が徴兵され、3年間の任期で九州へと送られました。この防人たちの故郷を思う心情などを詠んだ歌は「防人歌」として万葉集にも数多く収められています。
問3	答え 1 中国の都の仕組みを取り入れ、大規模な官庁街を備えた日本初の本格的な都が造営された。	この時期には、持統天皇らによって藤原京が建設されました。これは中国の都を模範とした日本初の本格的な都です。他の選択肢について、守護・地頭の設置は鎌倉時代、遣唐使の停止は平安時代、親魏倭王の称号は弥生時代の出来事であり、律令国家形成期の事象とは一致しません。
問4	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したため、国内の防衛体制と動員能力を強化しようとした。	中大兄皇子（天智天皇）は、百済復興のために送った軍が白村江の戦いで大敗したことを受け、唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。そのため、屋島城などの山城や水城を築いて防衛線を固めると同時に、全国規模の戸籍を作成して兵役や税を課す対象を明確に把握し、非常時に国全体を動員できる体制を整える必要がありました。
問5	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問6	答え 1 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問7	答え 1 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問8	答え 1 防人	唐や新羅の侵攻に備えるため、当時の政府は全国から兵士を徴用しましたが、特に九州北部の警備には「防人（さきもり）」が配置されました。彼らの多くは東国の農民から選ばれ、住み慣れた故郷を離れて厳しい任務に就きました。その苦しみや家族への思いを詠んだ歌は『万葉集』に「防人歌」として数多く収められています。
問9	答え 1 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問10	答え 2 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため	十七条の憲法の第一条には、豪族同士の争いを戒める「和をもって貴しとなす」という言葉が、第二条には仏教への信仰を促す「あつく三宝を敬え」という内容が記されています。これらは、勢力争いを続けていた豪族たちをまとめ上げ、天皇を支える役人としての自覚を持たせることを目的としていました。人材登用を目的とした「冠位十二階」や、土地・人民の公有化を目指した「公地公民」の考え方とは区別して理解する必要があります。
問11	答え 1 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐって、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐり、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問12	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。
問13	答え 2 天皇の権威を強め、法に基づき全国を直接統治する中央集権体制を確立すること。	壬申の乱で勝利した天武天皇は、天皇の力を背景に、法に基づき天皇が全国を直接支配する「中央集権国家」の完成を目指しました。この流れは、その後の持統天皇や、大宝律令の完成へとつながる重要な過程となりました。
問14	答え 1 世界最古の木造建築群とされる法隆寺が建立され、仏教を中心とする文化が栄えた。	聖徳太子は十七条の憲法の制定だけでなく、推古天皇の摂政として仏教を厚く保護しました。その象徴が七世紀初めに建立された法隆寺であり、当時の進んだ建築技術や仏教文化を今に伝えています。太子は、家柄に縛られない人材登用を目指す「冠位十二階」なども定めており、それまでの氏姓制度（家柄重視）による政治からの転換を図りました。律令が本格的に整うのは後の時代になります。